

「信じさせてくださる」

ルカによる福音書 24：36-49
使徒言行録 2：38-39

2023年4月23日

野村 友美 師

<私たちが恐れるもの>

さて、私たちが何かを「怖い」と思うのはどんな時でしょうか？ 皆さんは何が怖いのですか？ 私は先週、歯医者さんで「虫歯の治療のために神経を抜きますね」と言われた時、ものすごく怖かったです。ウイルスが怖い、暗い所とか高い所が怖い、自分や家族が病気になるのが怖い、事故が怖い、虫が怖い、人の心のわからなさが怖い、死が怖い。それこそいろんな「怖い」があると思います。自分にとって普通じゃないことや、自分とは違う異質な存在に出会った時私たち人間は「怖い」と感じるんじゃないでしょうか。私たちの「当たり前」では計れない存在だから、それが何を引き起こすのかが予想できなくて、よくわからなくて、不安で怖くなるんです。

今日の聖書の箇所では、復活したイエス様を怖がる弟子たちの姿が伝えられています。ずっとイエス様について来て、イエス様のことならよく知っていたはずの弟子たちでしたが、それでも突然目の前に現れたその人を「自分たちが知っているイエス様」だと信じるのはなかなか難しかったみたいです。

<復活されたイエス様>

イエス様が目の前に現れる直前まで、弟子た

ちはまさにそのイエス様について話し合っていました。使徒たちのリーダーで、イエス様のいちばん弟子のシモン・ペトロが復活したイエス様に会った。エマオに行った2人の仲間たちにも、復活したイエス様が現れて、一緒に歩いて話をして、パンまで裂いてくださった。そうやってみんなで喜んでいたのに、当のイエス様が現れて、彼らの真ん中に立って「あなたたちに平和があるように」って挨拶されると、弟子たちは喜ぶどころか、恐れおののきました。

確かにいきなりそんなことが起こったら、ビックリするのは当たり前でしょう。でもこの時の弟子たちは、ただビックリしただけじゃありませんでした。元のギリシャ語が表現しているのは、弟子たちが怖がって怯えて動揺して、もうほとんどパニック状態になっている姿です。そこにいるのがイエス様だとわからなかった訳じゃなくて、弟子たちはイエス様を亡霊だと思った、とルカの福音書は伝えています。

突然目の前に現れたイエス様と、三日前まで一緒にいたイエス様が、彼らには同じ「イエス様」だとは思えなかったんでしょう。亡霊だ、怖い！と怯えてパニックになっている弟子たちに、イエス様はご自分の手と足をお見せになって、「触ってみなさい」と言われました。亡霊にはないはずの肉と骨があって、誰の目にも見えるし、触ることもできる。それだけじゃなくて、イエス様の手と足には、十字架に釘で打ち付けられた跡がはっきり残っていたようです。

痛々しい傷跡がついたイエス様の両手と両足を見て、弟子たちはやっと「ああ、私たちが知ってるイエス様だ」と思うことができました。本当にあのイエス様だ！って喜んで、それでもやっぱりまだ信じられなくて彼らは不思議がります。確かにイエス様だと思うけど、本当に生きておられるのか？死んだ人が復活して生きているって、そんなことがあり得るのか？分かるけどわからない、なかなか自分を切り替えられない。そんな弟子たちのことが、きっとイエス様はもどかしかっただろうと思います。

でもイエス様は諦めないで、弟子たちが信じられるようになる方法を探されました。そして、彼らの目の前で焼き魚を食べて見せたんです。亡霊が焼き魚を食べるなんて、さすがに思えませんよね。食べることは、生きていることの何よりの証拠になります。ほら、わたしは確かに生きているよ、とイエス様は弟子たちに見せて聞かせて体験させて、教えておられるんです。見ても聞いてもなかなか信じられない弟子たちを、それでもイエス様は忍耐強く導いて、信じさせてくださいました。

それからイエス様は彼らに、聖書が伝えていることについて改めて教え始められます。モーセの律法と、預言者の書と、詩篇。今の私たちが旧約聖書と呼んでいる部分が、イエス様の時代の「聖書」でした。新約聖書はイエス様について書かれている部分ですから、この当時はまだないんです。「聖書に書いてある事柄は、必ずすべて実現する」ってまだあなたたちと一緒にいた時に言っておいただろう。

そう言って、イエス様は弟子たちの記憶を呼び起こして、彼らの心を聖書の言葉に向けさせておられます。

聖書にはこう書いてあるじゃないか。メシアは苦しみを受けて、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、メシアの名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。聖書の言葉を通して、イエス様は弟子たちに2つのことを教えています。ひとつは聖書が伝えているメシア、神様から遣わされる救い主の約束と、イエス様の十字架と復活の出来事は、ちゃんと繋がっているんだということです。

そしてもうひとつ。罪の赦しを得させる悔い改めが、イエス様の名によってあらゆる国の人々に、つまり世界中の人たちにこれから宣べ伝えられる、ということです。

ここまでは弟子たちも理解できて、受け入れられたでしょう。問題はこの続きにありました。「エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。」このイエス様の言葉は、当時のイスラエルを生きていた弟子たちにとって現代の私たちには想像しきれないぐらいショックだっただろうと思います。

そもそもイスラエルのユダヤ人たちは、異教徒の外国人と必要以上に関わることを律法で制限されていました。この律法は元々、いろんな宗教といろんな神様が混じり合っていた古代のパレスチナ世界で、イスラエルの人たちが周りに流されてしまわないための掟でした。

世界をお造りになった神様に従う民族、神様の民だという誇りを持って誘惑から身を守るために、そういう掟が与えられていたんです。でも長い年月が経つうちに、その掟はいつの間にか、外国人を嫌って見下す価値観をイスラエルの中に作り上げていました。やがて神様が世界のすべてを支配される日が来る、その時にはイスラエルだけじゃなくて世界中の国の人たちが神様に従うようになる、ということは聖書に繰り返し書いてありますから、もちろんイスラエルの人たちもそう信じていました。ただ彼らにとって、それはいつか神様がなさることで、メシアでもない自分たちがすることじゃなかったんです。でもイエス様は弟子たちに「あなたたちが世界中の人たちに伝える証人になるんだ」と言い渡されました。

聖書が伝えていた通りに、今やイエス様の死によって、すべての人の罪が赦された。イエス様の復活によって、すべての人に死を超えて生きる命への道が開かれた。だからイエス様の死と復活の出来事を信じて、自分の罪を認めて悔い改めるなら、今やどこの国のどんな人でも神様の民として生きることができる。

この救いの知らせを世界中に届ける証人として、弟子たちは送り出されることになるんです。

<信じさせてくださる>

もちろん、そんなことを急に言われて、すぐに「そうですか、わかりました！」なんて自分の価値観を切り替えるのは、誰にとっても難しいことです。例えば「敵を愛しなさい」って言

われて、すぐに愛せるようになるんだったら私たちはみんな苦労しないんじゃないでしょうか。この時の弟子たちだって、すぐにイエス様の言葉を受け入れて従うなんてとても無理だっただろうと思います。信じる神様が違う外国人のところに行って、イエス様のことを伝えるなんてイスラエルで生まれ育った弟子たちにとっては嫌だし怖いし、どうしたらいいかわからなかったでしょう。

そうじゃなくても、頼りない弟子たちの力だけで出来るようなことじゃありません。だからイエス様は「今すぐじゃない、しばらく待っていなさい」と言っておられます。神様が約束してくださったもの、高いところからの力として働かれる聖霊をわたしがあなたたちに送る。だから聖霊の力に覆われるまでは、このエルサレムの都で待っていなさい。そう言って、弟子たちに助けを送ると約束してくださったんです。準備ができないままで、信じられなくて不安なままで、あなたたちを一人ぼっちで放り出したりなんかしない、とイエス様は弟子たちを励ましておられます。

その約束の通りに、やがて天に昇られたイエス様から弟子たちに聖霊が送られました。キリスト教の暦ではイースターから50日後、聖霊降臨日(ペンテコステ)と呼ばれている日の出来事です。イエス様が約束してくださっていた聖霊が弟子たちに降ったその日、ペトロは集まってきた人たちに向かって、イエス様のことを証言しました。そして彼は最

後にこう勧めています。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼(バプテスマ)を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

(使徒2:38-39)

この時ペトロの話聞いていたのは、ほとんどが世界中のあちこちからエルサレムに来ていた外国育ちのユダヤ人たちでした。

同じ民族だけど、違う文化と宗教の土地で生活している人たちに、ペトロは堂々とイエス様の十字架と復活の出来事を伝えて、救いの約束を届けています。そして遠くにいるすべての人にも、どんな国のどんな人にも、神様からの救いの約束は与えられているんだと証言しています。たった50日前には、復活されたイエス様を亡霊だと思って怖がっていたペトロです。イスラエルで生まれ育って、異教徒の外国人と関わるなんてとんでもない、という価値観で生きてきたはずのペトロです。そのペトロがここで、すべての国のすべての人に神様からの救いは差し出されていると力強く宣言しているんです。

イエス様の言葉と、祈って待ちながら仲間たちと過ごした日々と、そして約束通りに与えられた聖霊が、ペトロをイエス様の証人にしました。信じられなかったことを、信じられるようにしてくださる。見せて聞かせて体験させて、

忍耐強く導いて、聖霊の助けを与えて弟子たち一人一人を証人として整えてくださる。イエス・キリストは、そういうお方です。

すべての人が、イエス様から今も招かれています。イエス様を救い主と信じて、罪の赦しを受け取る洗礼によって、私たちは聖霊を与えられて、イエス様の証人とされます。神様がすべての人を愛して救おうとしておられる、このことの証人とされるんです。ふさわしく見えてもそうじゃなくても、一人一人がイエス様の弟子として整えられて聖霊と一緒に送り出されていくんです。だから今日も私たちはこの礼拝から、それぞれの場所へと出て行きましょう。

すべての人に差し出されている神様の愛と救いを証言する者として。

信じさせてくださるイエス様に招かれて、導かれている者として。

イエス様が私たちを送り出してくださいます。お祈りいたしましょう。